

● 世界の主な火山活動

平成30年(2018年)6月に被害を伴った噴火が報告された主な火山(日本を除く)*は以下のとおり。

キラウエア (Kilauea) アメリカ(図中A) 標高1,222m

キラウエアでは、イーストリフトゾーン下部地域での噴火が継続しており、ハワイ郡民間防衛局によれば、17日までに533戸の家が溶岩流により破壊された。

フエゴ (Fuego) グアテマラ(図中B) 標高3,763m

フエゴでは、3日に爆発的噴火が発生した。ワシントンVAACによると、噴煙が海拔9kmまで上昇した。報道によると、火砕流が少なくとも8km流下し、その温度は700度に達した。ラ・アウロラ国際空港は3日から4日にかけて閉鎖された。その後も爆発的噴火が度々発生し、火砕流や火山泥流が流下した。グアテマラの国家災害対策調整委員会(CONRED)によれば、7月3日現在、6月3日の火砕流で113人が死亡し、197人が行方不明のままである。また、12,823人が避難している。

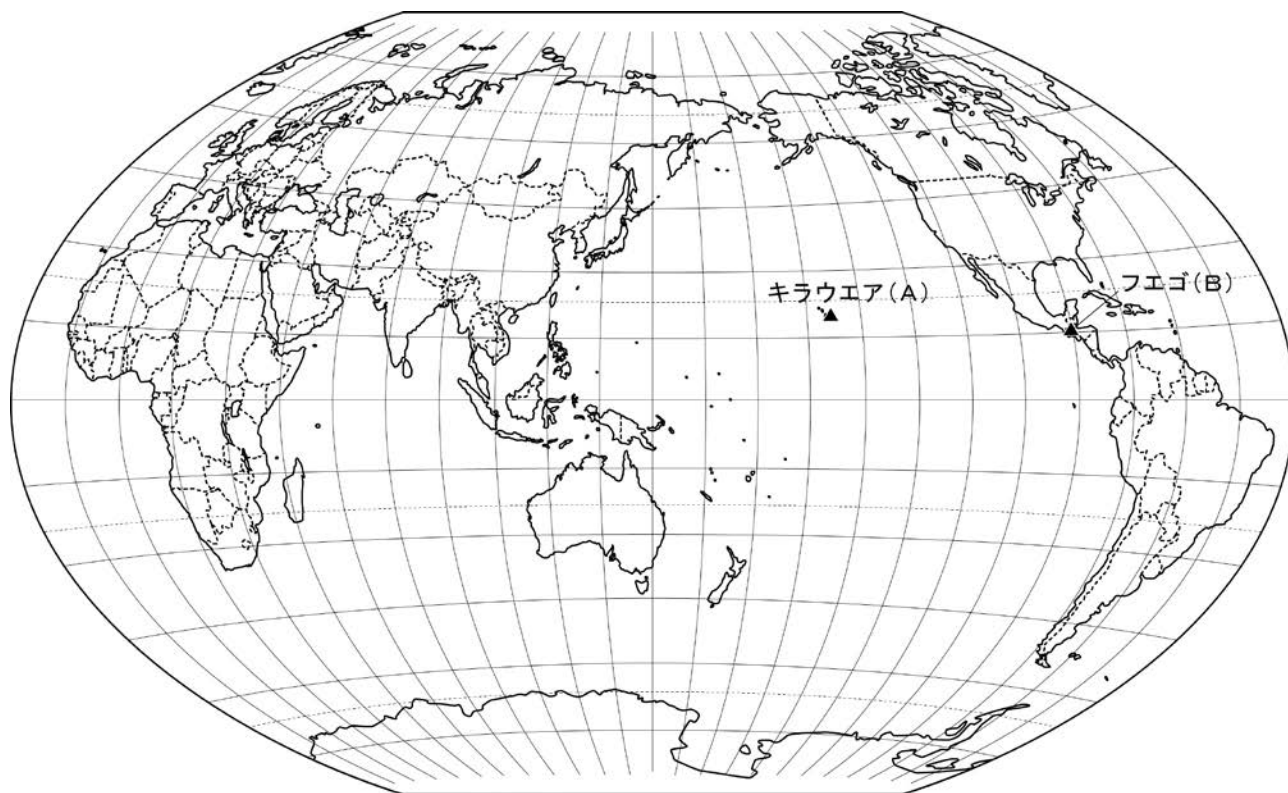


図 平成30年(2018年)6月に被害を伴った噴火が発生した主な火山(日本を除く)*

* 米国スミソニアン自然史博物館のホームページ“Global Volcanism Program | Smithsonian / USGS Weekly Volcanic Activity Report”(http://www.volcano.si.edu/reports_weekly.cfm)による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁:「火山観測指針(参考編)」による。